

愛媛県の地震

2026 年 8 月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況	1
3. 愛媛県で震度 1 以上を観測した地震.....	2
4. 愛媛県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図.....	2 ～ 3
5. 地震一口メモ	
推計震度分布図について.....	4 ～ 5

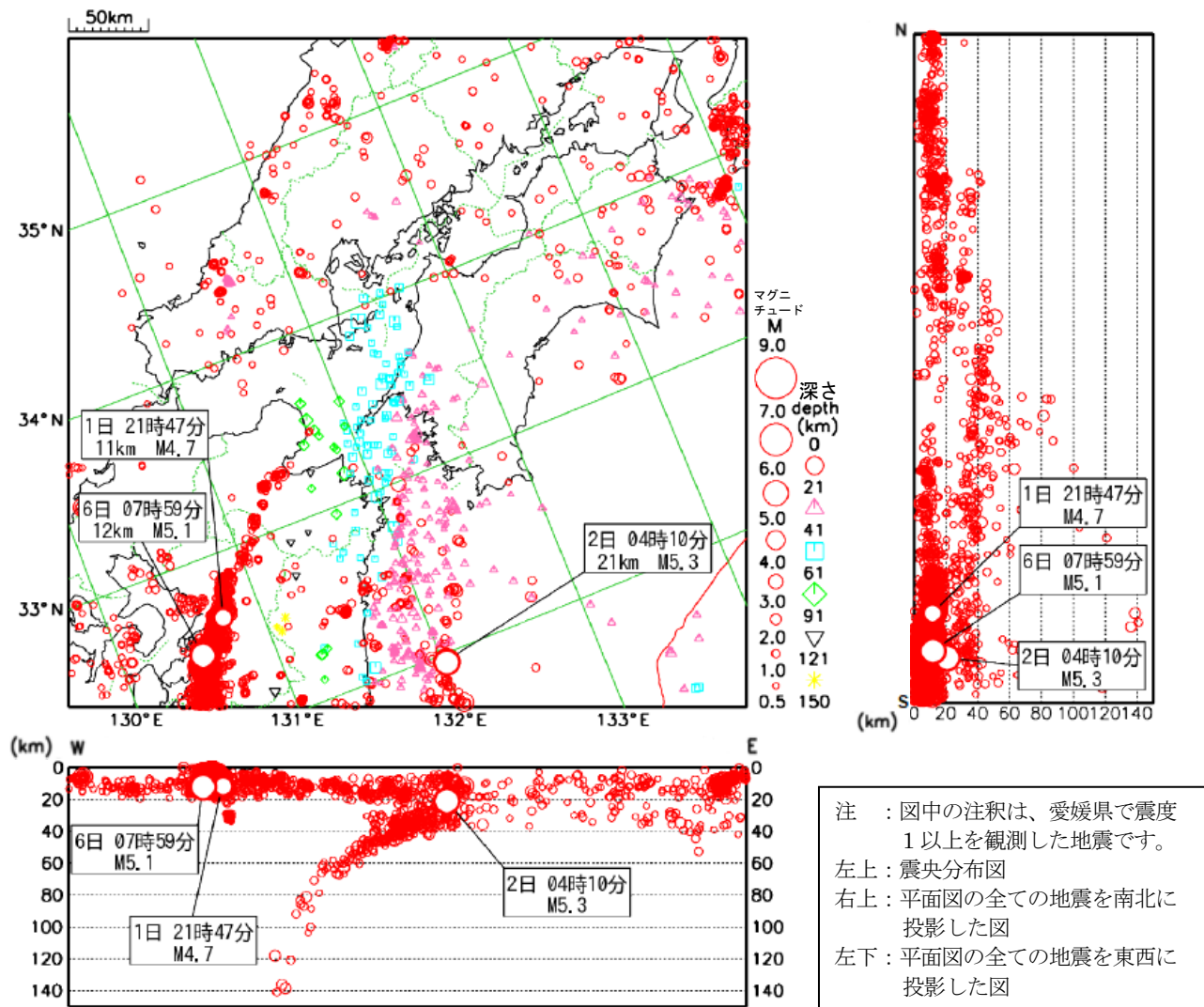
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2026年8月1日～8月31日]



2. 地震概況

2026年8月に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は790回（先月は1,113回）、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は3回（先月は5回）でした。

1日21時47分 熊本県熊本地方の地震（深さ11km、M4.7）により、愛媛県宇和島市・伊方町で震度1を観測しました。そのほか、熊本県で震度5弱を観測し、中国・四国・九州地方で震度4～1を観測しました。

2日04時10分 日向灘の地震（深さ21km、M5.3）により、愛媛県伊方町で震度2を観測しました。そのほか、大分県、宮崎県で震度3を観測し、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

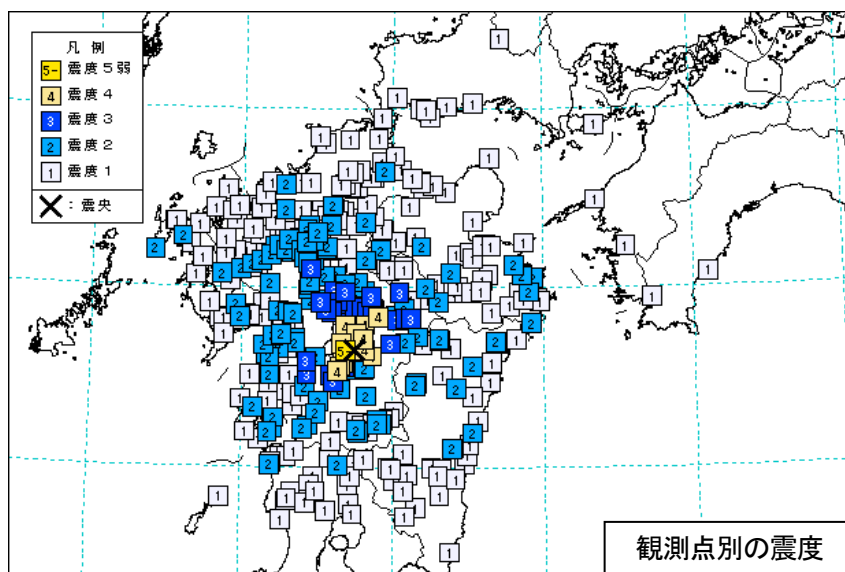
6日07時59分 熊本県天草・芦北地方の地震（深さ12km、M5.1）により、愛媛県宇和島市で震度1を観測しました。そのほか、長崎県、熊本県、鹿児島県で震度4を観測し、中国・四国・九州地方で震度3～1を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震

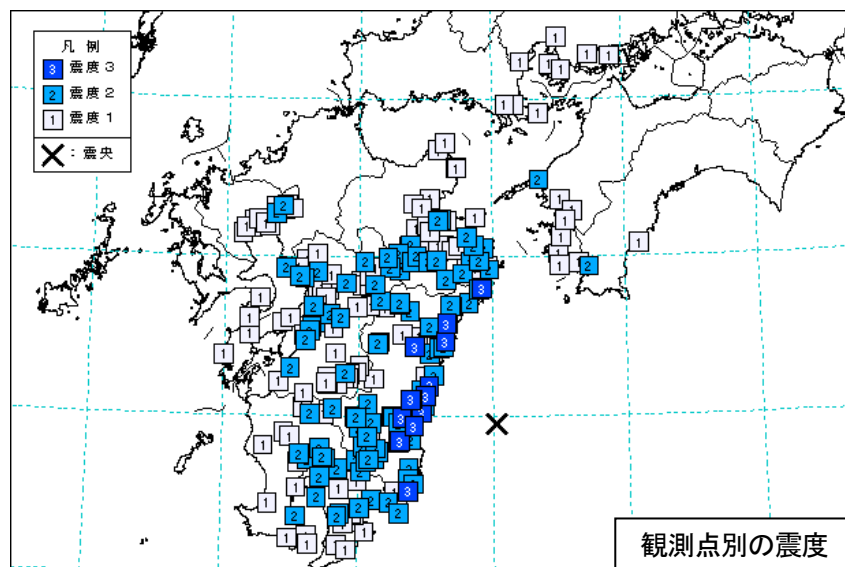
震源時（日時分） 愛媛県内各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
2026年						
08月01日21時47分	熊本県熊本地方	32° 38.8' N	130° 44.8' E	11km	M4.7	5弱
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：宇和島市住吉町,伊方町湊浦＊						
08月02日04時10分	日向灘	31° 57.1' N	132° 01.4' E	21km	M5.3	3
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 2：伊方町湊浦＊						
震度 1：宇和島市住吉町,宇和島市津島町＊,宇和島市三間町＊,西予市宇和町＊,愛南町船越＊,愛南町柏＊,愛南町一本松＊,愛南町城辺＊						
08月06日07時59分	熊本県天草・芦北地方	32° 29.3' N	130° 31.9' E	12km	M5.1	4
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：宇和島市住吉町						

注：＊印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

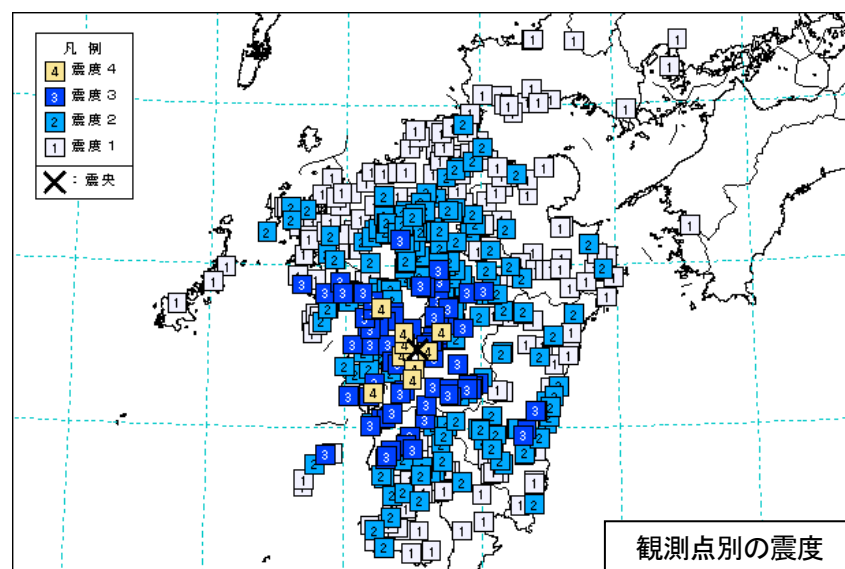
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図



8月1日21時47分 熊本県熊本地方



8月2日04時10分 日向灘



8月6日07時59分 熊本県天草・芦北地方

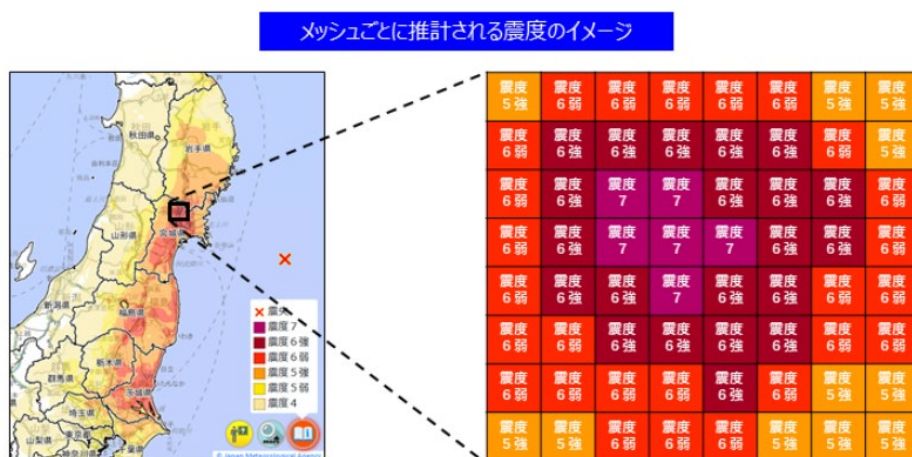
5. 地震一口メモ

推計震度分布図について

○推計震度分布図とは

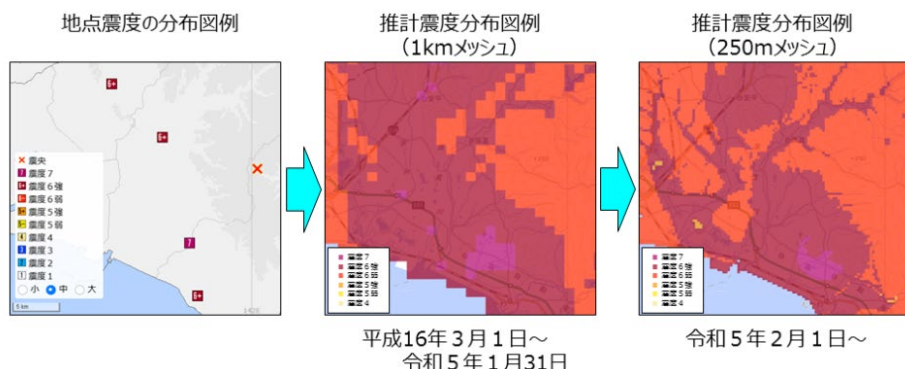
軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地表で観測される震度は、地面表層の地盤増幅の影響を大きく受けます。「推計震度分布図」は、実際に観測された震度等を基に、この地盤増幅度を使用して震度計のない場所の震度も推計（※1）して面的な分布図で震度を表現したものです。分布図は、原則として最大震度5弱以上を観測した場合に発表し、推計震度4以上の範囲を示します。ただし、震度5弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な広がりが見られない場合などは推計震度分布図を掲載しないことがあります。

※1 令和5年1月31日以前は1km四方の格子（メッシュ）、翌2月1日以降は250mメッシュに変更となり、高解像度化・高精度で震度を推計します。以下はイメージ（※2）です。



※2 実際の推計震度分布図は、イメージよりも詳細なメッシュとなります。

地震で観測された地点震度の分布図例と推計震度分布図例の比較を以下に示します。推計震度分布図では、震度の大きな地域がどのような広がりを持って分布しているかを確認することができます。震度が大きく推計された地域は、河川の流域、沖積平野、湿原地帯などといった揺れやすい地盤を反映していることがあります。大きな震度の面的な広がりを考慮して、被害状況把握などの参考資料としてご利用ください。

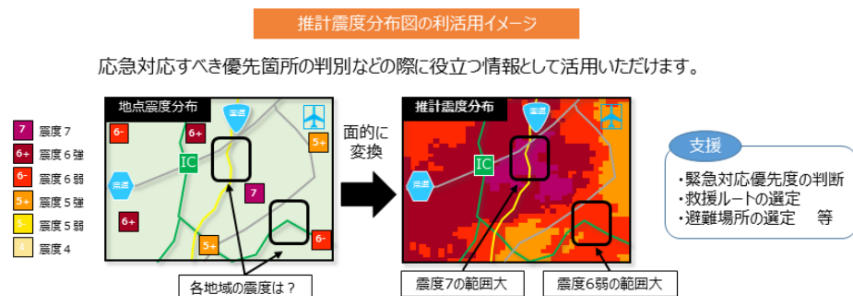


○推計震度分布図の利活用

推計震度分布図は、地図データとして活用可能な形式で、メッシュごとに推計した震度情報を提供します。このため、地図に重ね合わせて利用することで様々な活用いただけます。気象庁ホームページでは、地図データと重ね合わせて掲載しますので [\(推計震度分布図 \(防災情報\)\)](#)、揺れが強かった地域を一目で確認したり、震度計がない地域の震度を速やかに把握したりすることが可能です。

利活用事例の一つとして、地震発生直後の、応急対応すべき優先箇所の判別に活用可能です。迅速かつ適切な救難ルートを選定や避難場所の選定等に活用いただけます。また、メッシュデータを用いることで、ある地域の建物の被害を推計することや、企業活動において、被災地域に立地する拠点・事業所のBCP 対応の判断材料として活用いただくこともできます。

ある震度が推計された地域において、どのような現象や被害が発生すると想定されるかについては、[気象庁震度階級関連解説表](#)をご参照ください。



○利用上の注意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

○過去の推計震度分布図の例と閲覧方法

図1は、2024年4月17日の豊後水道の地震（深さ39km、M6.6）の推計震度分布図（震源要素：速報値）です。この地震により、愛南町で震度6弱、宇和島市で震度5強の揺れを観測しました。推計震度分布図を利用することで、愛南町・宇和島市では震度の大きな領域が広がっている様子が確認でき、また震度5弱を観測した西予市でも局地的には震度5強程度の揺れがあったかもしれないことが分かります。過去の地震の推計震度分布図については、図1中の右下にある赤丸で囲った部分をクリックすると閲覧することができます。

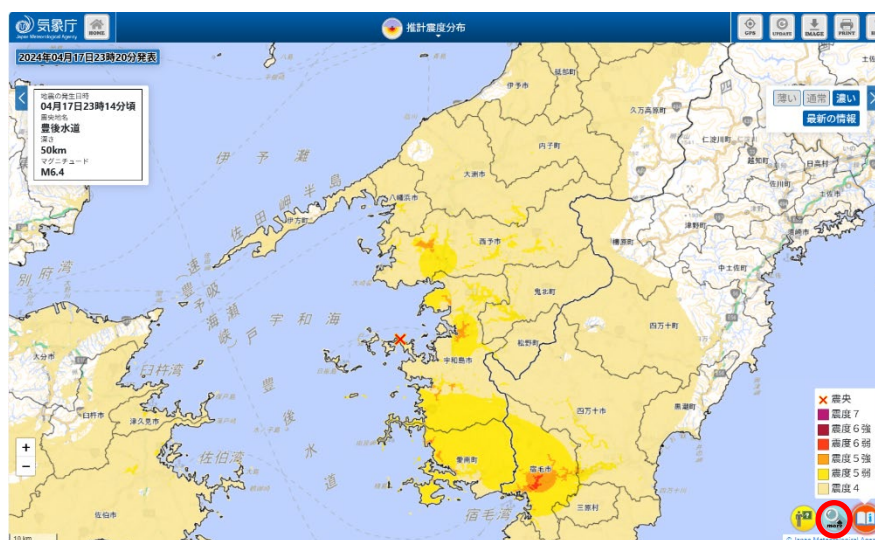


図1 2024年4月17日 豊後水道の地震の推計震度分布図

(気象庁ホームページ) : 推計震度分布図について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/suikai/kaisetsu.html>

(気象庁ホームページ) : 推計震度分布

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map